

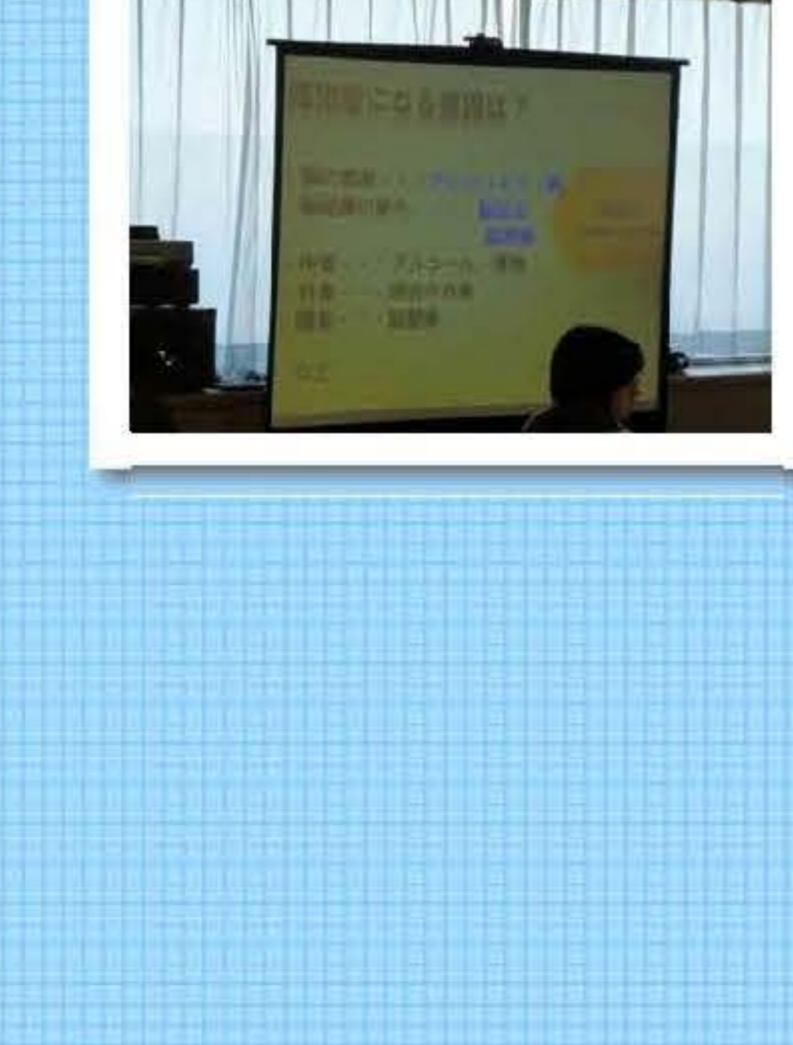
1. 認知症サポーターとは？

認知症サポーターは「なにか」特別なことをやる人ではありません。

認知症サポータ養成講座を受講し、認知症についての知識や理解を深めて頂いた方々のことです。

2. 認知症サポーターの役割

◆認知症の人が困っている様子が見えたなら「なにかお手伝いすることができますか」と一声かけてみます。たとえ、具体的な援助はできなくても理解者であることをしめすことができます。



日常生活の中で、認知症の方が困っているのを見かけたときに声をかけるなど、ちょっとした心配りをする方です。また、認知症の人や家族を応援者です。

◆地域で暮らす認知症の人やその家族の生活を商店や交通機関、金融機関など、各々の生活場面において直接サポートする。

◆地域で生活する認知症高齢者と様々な社会資源と繋げる窓口となることなど。

3. 認知症とは？

認知症とは、脳に起こる病気によって、「記憶する」、「時・場所・人などを認識する」、「計算する」などの認識能力が低下し、日常生活を送ることが困難になる状態のことです。

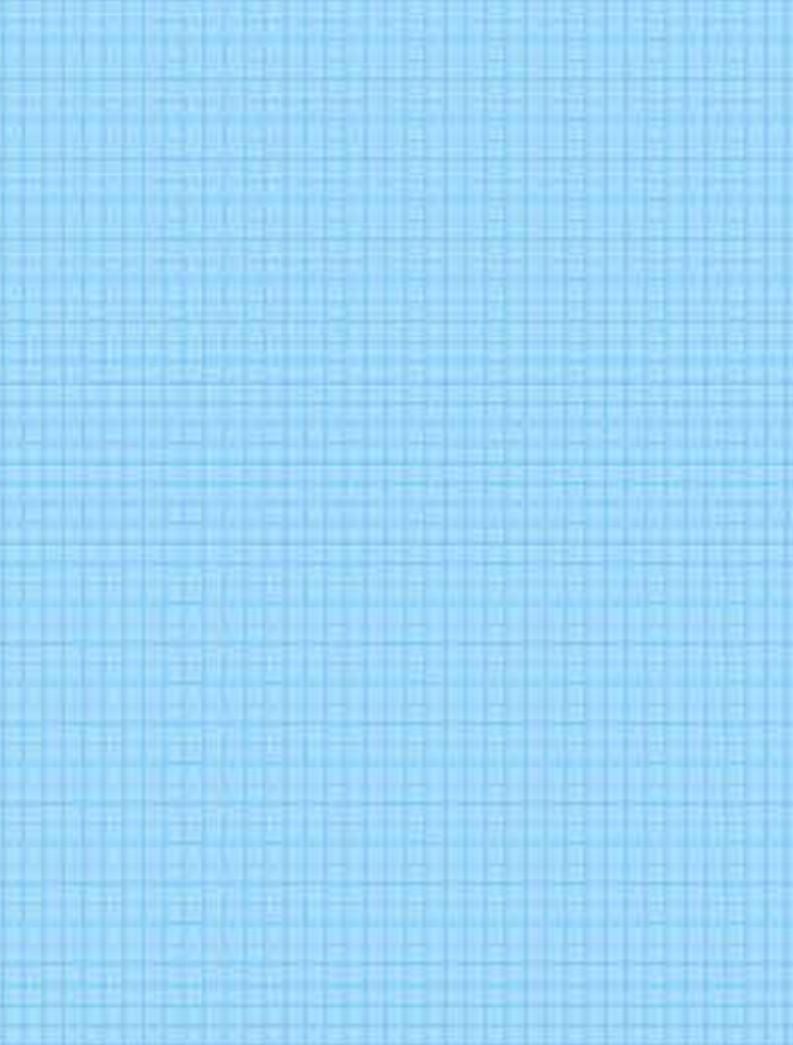
また、認知症は、高齢期には誰でも起こる可能性があります。

尚、加齢によるもの忘れとは異なります。

4. 認知症の症状

◆記憶障害

さつき聞いたことも、見たことも忘れてしまいます。忘れたことも気付かず何度も同じことを言ったり聞いたりしますが、認知症の人は毎回はじめて聞くことなのです。



◆見当識障害

今が「いつ」で自分が「どこ」にいるか、目の前のいる人が「誰」かが分からなくなり、不安な気持ちになります。

◆判断力の障害

考えをまとめるのに時間がかかります。

◆実行機能障害

今までできたことができなくなります。具体例として、家電や自販機などが使いこなせなくなります。

◆行動・心理症状

大事な物を自分でしまい込み、しまったこと自体を忘れる。

性格、環境、身体状況を具体的に言うと、自立心が強い。子どもに世話を迷惑をかけたくない。

もの忘れ等からの周辺症状として、行動、心理状況が悪く重なると「家族が、わたしの大物を盗んだ！」と言ってしまう。

5. 対応として

・物を取られた妄想の方には、一緒に探す。

・認知症によって困っている事があれば、できないこと、わからないことをさりげなく手助けして下さい。

押し付けず、急がず、その人のペースで。

・本人にも自覚があることを知って下さい。

自分がこれまでとは違う事に最初に気付くことは本人です。

す。本人にも「認知症かもしれない」という自覚があることを知って下さい。

それを理解して対応すること大切です。

6. 家族にも支援が必要です。

家族が様々な葛藤の中で認知症と向き合い、認知症の人を支えていくためには、家族に対しても周囲の理解と支援が必要です。

認知症の介護は長丁場です。

息抜きをし、愚痴を言い合える場所や認知症をオープンにして、行動、心理状況が悪く重なると「家族が、わたしの大物を盗んだ！」と言つてしまふ。

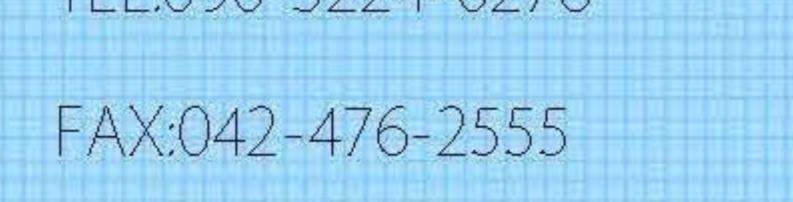


「認知症サポーターの証」オレンジング

地産地消（野島農園）で生産された柿

J A茨城県(町興し)サトイモエキス入りゼリー・ポンボン(飴)

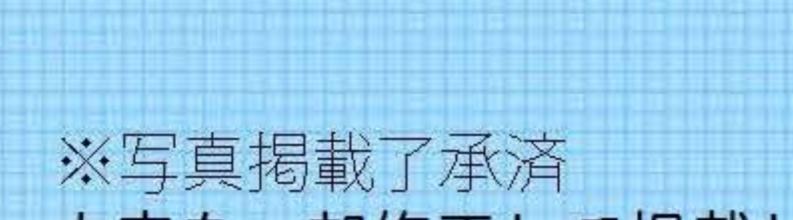
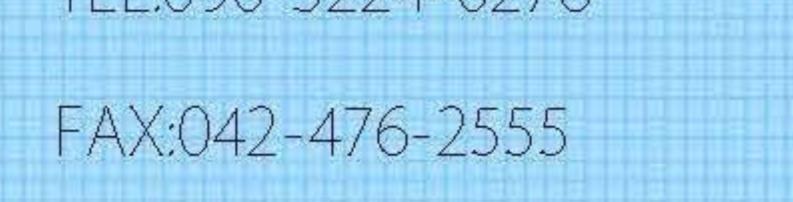
等を希望者に土産として渡しました。



「サトイモエキス入りのゼリー、ポンボン(飴)

※2016/12/14

※写真掲載了承済
内容を一部修正して掲載しております



文責：

門前自治会会长 野島貞夫

TEL:090-3224-0278

FAX:042-476-2555

mail:nojima.sadao@jcom.home.ne.jp